

# LIT350 イギリス文学

3年 3,4クォーター

担当教員 木原 泰紀

授業形態 講義

アクティブ・ラーニング 該当しない

単位数 2

曜日・時限 金曜日・1時限

## 授業概要

主に近現代のイギリス文学について考察する。各作家、あるいは各文学作品が生まれた時代の歴史的・文化的背景の把握を前提とし、幅広い観点から考察する。また文学的な英語の理解を深めることも重要なこのクラスの目標である。前半では、19世紀ヴィクトリア朝の作家、チャールズ・ディケンズを取り上げ、初期の『オリヴァー・トゥイスト』と後期の『大いなる遺産』を読む。前者の「階層社会」、「下層階級」、「救貧院制度」、そして後者の「階層社会」、「紳士階級」、「教養小説」をキーワードとして、それぞれの作品、そしてそれぞれの時代背景を読み解いていく。次に、20世紀イギリスを代表する作家、グレアム・グリーンを取り上げる。短編「アイ・スパイ」、「無垢なるもの」、「説明のヒント」、「特別任務」、さらに長編『情事の終わり』を読む。短編、長編共に、グリーンの世界を彩る「第一次・第二次世界大戦」、「カトリック」、「無垢と経験」、「サスペンス」といったキーワードを手掛かりとして複雑な作品群、複雑な時代背景を読み解いていく。また、両作家を繋ぐ「文学の娯楽性」というテーマについても考察する予定である。

## 到達目標

- (1) 近現代イギリス文学の流れを理解する。
- (2) ヴィクトリア朝時代、特にその階層社会の様相を理解し、考察する。
- (3) 20世紀、特に二つの大戦に彩られた時代を理解し、考察する。
- (4) ディケンズの文学性について基本的な情報を理解し、さらなる発展的な情報を自ら調べ、考察する。
- (5) グリーンの文学性について基本的な情報を理解し、さらなる発展的な情報を自ら調べ、考察する。
- (6) 文学的な英語の読解を深める。

## 期待される効果

- (1) 近現代のイギリス、ヨーロッパ文化の理解が現代の国際文化交流の実践に裨益するものと考えられる。
- (2) 文学的な英語の読解の訓練が全般的な英語能力の発展に寄与するものと期待することができる。

## 先修科目

特になし

## 教科書・参考資料等

開講時に指示する。

## 授業の方法

この授業は主に講義形式で行う。毎回学生は講義内容をワークシートにまとめ、提出しなければならない。また学生一人最低一回は、課題について調査し、発表をすることが義務付けられる。

## 成績評価

毎回提出のワークシート、発表（発表に用いた資料も含む）、試験を総合的に評価する。

## 成績

- 20% ワークシート
- 30% 発表
- 50% 試験

## 授業スケジュール

---

### 第1回:イギリス文学の概要

イギリス文学を概観する。特に小説というジャンルの成り立ち、その歴史に焦点を当てる。

### 第2回:ヴィクトリア朝時代、及びヴィクトリア朝文学の概要

ヴィクトリア朝社会、及びヴィクトリア朝文学について、その両者の密接な関係に留意しながら、それぞれ概観する。

### 第3回:チャールズ・ディケンズの概要

ヴィクトリア朝を代表する小説家チャールズ・ディケンズの人生を辿りながら、彼の文学世界を概観する。

### 第4回:『オリヴァー・トゥイスト』とヴィクトリア朝下層階級について

ディケンズの初期の代表作『オリヴァー・トゥイスト』を読む。下層階級の様相を伝えている部分に焦点を当てる。

### 第5回:『オリヴァー・トゥイスト』と「救貧院制度」について

前回に続いて『オリヴァー・トゥイスト』を読む。特に救貧院の場面に焦点を当てる。「救貧院制度」についても学ぶ。

### 第6回:『大いなる遺産』と紳士階級について

ディケンズの晩年の傑作『大いなる遺産』を読む。この作品のテーマ「紳士」に関連する部分に焦点を当てる。

### 第7回:『大いなる遺産』と教養小説について

前回に続いて『大いなる遺産』を読む。教養小説としての特質に焦点を当てる。「教養小説」についても学ぶ。

### 第8回:第1回学生の発表

学生は各々上記2作以外のディケンズ作品を読み、作品分析を織り込んだ発表を行う。

### 第9回:20世紀イギリス史、及び同時代文学史の概要

20世紀イギリス社会、及び20世紀イギリス文学について、その両者の密接な関係に留意しながら、それぞれ概観する。

### 第10回:グレアム・グリーンズの概要

20世紀を代表するイギリスの小説家グレアム・グリーンズの人生を辿りながら、彼の文学世界を概観する。

### 第11回:「アイ・スパイ」「無垢なるもの」とイニシエーション及び戦争について

グリーンズの短編を読む。特に戦時下に生きる少年達のイニシエーションを扱った作品に焦点を当てる。

### 第12回:「説明のヒント」「特別任務」とカトリック及び戦争について

続いてグリーンズの短編を読む。特に戦争と宗教(カトリシズム)を扱った作品に焦点を当てる。

### 第13回:『情事の終わり』とカトリック及び戦争について

前回に続いて戦争と宗教(カトリシズム)を扱った作品に焦点を当てる。このテーマを内包する長編『情事の終わり』を読む。

### 第14回:第2回学生の発表

学生は前回までに扱った作品以外のグリーンズの作品を読み、作品分析を織り込んだ発表を行う。

### 第15回:ディケンズとグリーンについて

ディケンズとグリーンについて、グリーン自ら記したディケンズに関する論考(「若き日のディケンズ」)を手掛かりに、両者を比較考察する。

## 事前・事後学習

---

- ① 各授業の終わりに次回までに準備すべきことを伝える。それに応じて、次回の授業準備を行うこと(予習)。
- ② 各授業の後に、テキスト、配布資料、またワークシート(提出用の他に配布)を利用し、授業内容の理解を深めること(復習)。